

固定運動遊具による

幼児の遊びの発達についての実験的研究 (4)

岡 本 卓 夫

九、太鼓橋

四才児

ひとりの場合、男・女児とも、まずほとんどの子どもが一方の端からはいあがる。そして、それらの中には、頂上でためらいながらぎこちなく腰を回して他方の端においていく子どもと、そこからまた元の方へひきかえす子どもとおる。その後は、いずれの場合も、彼らは、橋の下側に回り、手のとどく高さのところを第二三表に示すごとき遊びをする。だが、この年令では、休んでいて何もしない時間が多い。










二人以上のグループになっても、彼らは協同的遊びはせず、それぞれ両端の低いところで自分勝手に遊ぶ。

だが、人数の増加とともにぶらさがって遊ぶ子どもは減少し、両端の低いところではあるが、そこに大勢あがってじっとしている場合が多い。だが、これではおもしろくないのか、しばらくすると分散し、それぞれ自分勝手に他の遊びにうつってしまう。

五才児

ひとりの場合、男・女児とも一方の端からはいあがること四才児に同じ。だが、それらの子どものうち他方の側に渡っておりる子どもと、頂上で止まり、その位置で両脚・脇かけをしたり、仰向両脚かけなどをしておりる子どもといる。その後、橋の下でぶらさがったり、脚ぬき後回りなど第二三表に示すごとき遊びをくりかえす。二人以上になっても、協同的遊びはせず、それぞれ勝手に遊ぶ。

第 23 表 ひとり遊びの種類と平均回数・時間

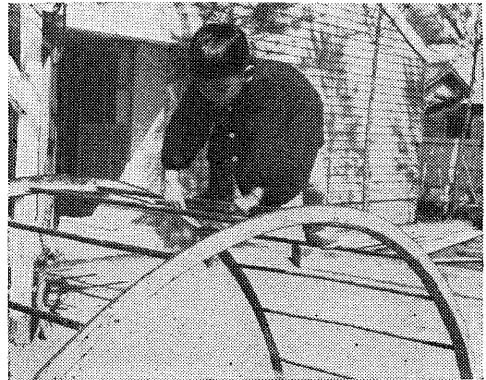
遊 び の 種 類	年 令		4 才		5 才		6 才	
	性		男	女	男	女	男	女
伏 臥 渡 り 			0.8 (30 ^秒)	0.5 (22 ^秒)	1.2 (29 ^秒)	1.0 (23 ^秒)	0.8 (18 ^秒)	0.2 (4 ^秒)
長 懸 垂 			1.2 (10 ^秒)	0.8 (3 ^秒)	0.8 (13 ^秒)	0.4 (4 ^秒)	1.0 (20 ^秒)	0.5 (3 ^秒)
両 脚 ・ 脇 掛 け 					1.3 (33 ^秒)	1.7 (29 ^秒)	2.1 (41 ^秒)	2.4 (38 ^秒)
仰 向 両 脚 掛 け 			1.3 (13 ^秒)	2.1 (21 ^秒)	1.4 (21 ^秒)	2.5 (37 ^秒)	2.3 (31 ^秒)	2.2 (39 ^秒)
脚 ぬ き 後 回 り (横 向 き) 						1.1 (8 ^秒)	0.3 (2 ^秒)	2.0 (12 ^秒)
(縦 向 き) 							0.2 (1 ^秒)	1.5 (11 ^秒)
両 脚 掛 け 逆 懸 垂 (横 向 き) 						0.4 (7 ^秒)		0.4 (6 ^秒)
(縦 向 き) 								0.1 (1 ^秒)
脇 掛 け 懸 垂 			0.6 (4 ^秒)	0.4 (2 ^秒)	1.1 (10 ^秒)	0.3 (2 ^秒)	1.7 (9 ^秒)	0.5 (3 ^秒)
そ の 他 く ぐ っ た り 腰 掛 け 休 み な ど			(2'03 ^秒)	(2'12 ^秒)	(1'14 ^秒)	(1'10 ^秒)	(58 ^秒)	(1'03 ^秒)

註 (一) 内数字は、平均時間を示す。

第 17 図 伏臥渡り (5才男児)



第 18 図 逆懸垂手ばなし (6才女)



だが、人数の増加とともに、遊び方は限定され、男児は橋の上側で、女児は下側で遊ぶ傾向がある。

一〇人以上のグループにもなると、一度は橋の上にあがったり、ぶらさがったりはするけれども、すぐに分散し、それぞれ自分勝手に他の遊びや遊具にうつる。

六才児

ひとりの場合、その様式は、おおむね五才児に似ておる。だが、第二三表にも示すごとく、この年齢になると、ただ単に渡るという単純な遊びは減り、頂上までいくや、横向きになり、股いでバーの間から臀部を落し、そのままぐりおりたり、脚ぬき後回りや逆懸垂での手ばなしなどが多くなり、活動は活発に、器用さを要する遊びを求めるようになる。

二人以上になっても、やはり、この遊具では協同的遊びはおこなわれず、その遊びの様式はほとんど五才児と同じである。

一〇、はん登棒

四才児

まず、頭の高さくらいのところにつかまるや、片足をあげ一、二回のぼろうとする。だが、すべるので男・女児とも全くのぼれない。

したがって、それにもたれかかっているかあるいは他の遊具にうつる。

五才児

ひとりの場合、はん登棒にいくや、両腕を二ばい上に伸ばして握り、ちよつととびあがるようにしてはん登を試みる。男・女児とも約半数は第一回目に完登、ちよつと休んで滑りおりる。だが、それらの子どもも、第二回目からは完登できず、中途からすぐおりる。かくして、三、四回遊んでいるうちに腕が疲れ他の遊びにうつる。

また、残り半数の子どもは、最初から半分くらいの高さまでしか登れないかあるいは全くのぼれない子どもで、これらの子どもも二、三回ははん登を試みるが、その後は、他の遊びにうつってしまう。

二人の場合、男・女・混合いずれの組においても、まず、先を争ってのぼろうとする。そして、多くの場合、活動的な子どもが先へのぼり、これを二、三回連続して試みる。他の子どもは、その子どもが休んでいる間にのぼる。だが、一、二回交代したら、その後は、活動的な子どもが独占してしまうので、他の子どもはそこをばなれ、自分勝手な遊びにうつる。だが、やがて独占しておった子どもも他の遊びにうつっていく。この傾向は、男児組、混合組に多い。

三人以上にもなると、最初から活動的な子どもが独占し、みんなて遊ばず、したがって、しばらくするとグループは分散、それぞれ

第 24 表 ひとり遊びの種類と平均時間

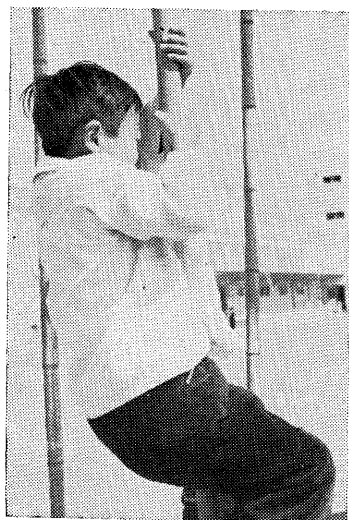
遊びの種類	年 令		4 才		5 才		6 才	
	性		男	女	男	女	男	女
登 る					48"	37"	1'38"	1'06"
そ の 他			3'00"	3'00"	2'12"	2'23"	1'22"	1'54"

第 25 表 2 人遊びの種類と平均時間

遊びの種類	年 令		4 才			5 才			6 才		
	性		男	女	混	男	女	混	男	女	混
交代のぼり						21"	43"	12"	1'07"	1'56"	21"
そ の 他			3'00"	3'00"	3'00"	2'39"	2'17"	2'48"	1'53"	1'04"	2'39"

第 26 表 3人、5人遊びの種類と平均時間

構 成	遊びの種類	年 令		5 才		6 才	
		性		男	女	男	女
3 人	交代のぼり					24"	1'11"
	そ の 他			3'00"	3'00"	2'36"	1'49"
5 人以上	そ の 他			3'00"	3'00"	3'00"	3'00"



第 19 図 はん登 (6才男児)

自分勝手に他の遊びにうつる。

六才児

ひとりの場合、男・女児とも、まず腕を一ぱいに伸ばして握り、棒の粗滑をしらべ、両手掌を服でふき、さらに男児では、手・足裏に「つば」をつけ、しかるのち、のびあがるようにして、あるいはとびついて登っていく。男・女児とも、そのほとんどが第一回目を完登、下あるいは遠くを眺めて後、すべりおろす。これを一〜三回くらいくりかえすと、その後は、五才児においてのべたごとく、だんだん疲れ、終にはこれからはなれていく。だが、この期になると、手・足のコンビはきわめてうまくなっている。

二人の場合、男児組では、まず活動的な子どもが先にのぼり、ひと登りずつ三、四回交代して遊ぶが、女児組では、じゃんけんによって順番を決め、数回交代して遊ぶ。だが、その後は、五才児においてのべたごとき行動にうつる。混合組では、はじめからずっと活動的な子どもが独占して遊ぶ傾向が強く、他の子どもは、自分の好きな遊具にうつってしまう。

三人になっても、女児組は、二人組のときのような要領で遊べるが、男児組ではそれができず、はじめからボスの子どもが独占し、三人はそれぞれ勝手に遊ぶ。

五人以上になると、「こんなに大勢は登れんわ」といって分散。結局、ボスの子どもだけがのぼってしばらく遊ぶだけになる。

ま と め

一、すべり台（仲じきりあるもの）

ひとり遊びにおいて、四才児は男・女いずれも単にすべっておりただけであるが、五才、六才と年令の進むにつれて次第にすべり方が複雑となり、その種類も多く、特に男児は、スリラーなすべり方を好むようになる。

また、いずれの年令・組においても、ひとりのときはゆっくり遊

んでおるが、二人、三人とグループの人数が増加するとともに、その活動は次第に活発になる。だが、協同的遊びはみられず、一般にこれでの遊びは連合遊びが多い。

二、ぶらんこ

ひとり遊びにおいて、四才児は男・女いずれも単に「腰かけゆり」で遊ぶのが多いが、五才、六才と年令の進むにつれ「腰かけゆり」は少なくなり、「立ゆり」が多くなってき、ゆりながら、「腰かけゆり」立ゆり「腰かけゆり」と自由にゆり方を変えることができるようになる。中でも、六才男児は「ふりだしとび」を好む。

また、二人、三人とグループの人数が増加してくると、四才児では全くみんなで協力して遊べないが、五才、六才になると、スムーズではないが、リーダーがあらわれ、二人あるいは三人がいっしょにのったり、あるいは交代してのったりできるようになる。だが、一般にこれでの遊びは、ひとり遊びが好まれている。

三、ジャングルジム

ひとり遊びにおいて、四才児は男・女いずれも単にジムにあがっているというだけであるが、五才、六才と年令の進むにつれて、ジムを動き回る度合が多くなり、遊びも変り、特に、上段に登ることを好むようになる。

また、二人、三人とグループの人数増加にともない、いずれの年令・組においてもその活動は次第に活発となり、ある場合には、リーダーがあらわれ、「鬼ごっこ」がおこなわれている。だが、一般にこれでの遊びは、連合遊びが多い。

四、低 鉄 棒

ひとり遊びにおいて、四才児は男・女いずれも単純な遊びが多く、とびついたり、ぶらさがったり、脚をかけてみる程度だが、五才、六才と年令の進むにつれて遊びの種類も多くなり、技術も高度に、性差もはっきりあらわれてくる。特に六才児では、男児より女児の方がきわめて活発、技能もすぐれておる。

また、ひとりのときより、二人がいっしょに遊ぶときの方が互に模倣し合つて活発に遊ぶが、一欄に三人も遊ぶと、互に邪魔になり、スムーズに遊べない。この遊具では、ひとり遊びが好まれておる。

五、遊 動 橋

ひとり遊びにおいて、四才児は男・女いずれも単に鎖につかまつて小さくゆるだけだが、五才、六才と年令の進むにつれて、そのゆりも大きくなり、中央にのつてゆることもでき、ゆりながら端から端へ渡ること（六才男児）もできるようになる。

また、二人、三人とグループの人数が増加すると、いずれの年令・組においても、リーダーがあらわれ、その年令に従つてゆり、みんなで遊ぶ。一般にこの遊具では、幼児にとっては、比較的大グループによる協同的遊びがなされている。

六、固 定 円 木

ひとり遊びにおいて、四才児は男・女いずれも単に円木にもたれかかったり、腰かけたり、あるいはその上をおそるおそる横進する程度。だが、五才、六才と年令の進むにつれて、男児は円木上をはったり、股いで遊び、あるいはこれをとび越え、この上からとびおりに遊ぶ。これに対し、女児は円木上での前進・後進・横進など、バランスを要する遊びが得意となる。

また、二人、三人とグループの人数が増加してくると、その活動は活発となるが、種目においては、四才児はひとり遊びのときと変らず、五才、六才と年令の進むにつれて二、三人の小グループによる「落しっこ」が好まれておる。

七、シ ー ソ ー

ひとり遊びにおいて、四才児は男・女いずれも単にその端っこに腰かけて遊ぶのが多いが、五才、六才と年令の進むにつれて、彼らはその上にあがり、中央に立ったり、腰かけて重心を左右に移動し

てカタン・コトンさせて遊ぶ。

また、二人、三人とグループの人数が増加すると、四才児では、男児組ならどうにかバランスをとって遊べるが、女児組では、ほとんど遊べない（高さに関係するが）。だが、五才、六才になってくると、男・女いずれの組もさらにじょうずに遊び、人数の増減によるバランスの調節も自由にできるようになる。

八、雲梯

ひとり遊びにおいて、四才児は男・女いずれも単にぶらさがるという程度だが、五才、六才と年令の進むにつれて、長懸垂で渡って遊んだり、あるいは男児では雲梯の上にあがり、女児ではその下側で脚をかけたなりなどして遊ぶ。

また、二人、三人とグループの人数が増加しても、四才児は変らず、五才、六才児になると、特に男児組ではそれに元氣を得て、雲梯の上にあがる子どもが多くなり、女児組ではその下側でぶらさがって渡る子どもが多くなる。だが、この遊具では、腕がつかれ、手の中が痛くなるので長時間は遊べない。

九、太鼓橋

ひとり遊びにおいて、四才児は男・女いずれも単に橋を渡るかあるいはぶらさがるといふ程度だが、五才、六才になると、それだけ

では満足せず、くぐり下りたり、くぐり上ったり、あるいは脇をかけ、脚をかけてぶらさがり変化ある遊びを好み活動も活発となる。

また、二人、三人とグループの人数が増しても、彼らはそれぞれ勝手に遊び、いずれの年令、組においても協同的遊びはみられない。だが、人数の増加とともに、男児は上にあがり、女児は下側で遊ぶ傾向がある。

一〇、はん登棒

ひとり遊びにおいて、四才児は男・女いずれもこれに登っては遊べない。だが、五才児では、その半数が、六才児ではそのほとんどが完登でき、手・足の協応もじょうずになってはくるが、ただ単に「登る」だけだから遊びも単調、腕の疲労とともに長時間は遊ばない。

また、二人、三人とグループの人数が増加すると、四才児ではみんな遊べないが、五才、六才になると、男・女いずれの組でも、二、三回は交代して登りっこをするが、これもすぐにあいてき、分散してしまう。五人以上にもなると、全くみんなで遊ぶことはできない。一般にこれでの遊びは、ひとり遊びが好まれておる。

(徳島大学)